

# 請 願 審 査

●請願第27-1号  
年金積立金の専ら被保険者の利益のための安全かつ確実な運用に関する意見書の採択を求める請願

文教厚生委員会報告

↓不採択とすべきもの

年金の運用資産の構成割合の活用方法を調査した結果、年金積立金管理運用独立行政法人による累積収益額が十分に確保されていることから、現状での運用を続けることが妥当であると判断した。

【討論】

【委員会報告に反対】

光風会 江田 五六議員

年金は、高齢者やこれから年金受給の予定をしている方々にとっては大切な虎の子。年金運用を一時の政権の経済政策によって、リ

スクの高い株式投資にこれまでの12%以下から50%まで引き上げることが大変危険なことである。

本会議で

**採択**

となりました

●請願第27-4号  
教育予算の拡充を求める請願

文教厚生委員会報告

↓採択すべきもの

自治体独自の財源だけで少人数学級を拡充することは困難。国に①きめ細やかな教育実現のための少人数学級の推進②義務教育費国庫負担制度の堅持③震災からの教育振興のための継続した予算措置を求める。

本会議で

**採択**

となりました

●請願第27-5号  
安全保障関連2法案の廃案を求める意見書採択についての請願

総務委員会報告

↓不採択とすべきもの

戦争は絶対起こすべきものではなく、話し合いで世界の紛争が解決できる時代が来ることを切に望む。しかし、国連の設立理念である「集団安全保障」を目指すには多様な抑止の備えを駆使した対応が求められる。

【討論】

【委員会報告に反対】

日本共産党 大名美恵子議員

民意の6割余が今国会での成立は不要を表明。安倍自民・公明政権がこれを踏みにじり、違憲立法を強行したことは、日本国憲法の国民主権と民主主義を破壊すること。誰の子もどこの子も、絶対戦争に巻き込またくない。

無党派 相沢 一正議員

軍事力で本質的な紛争解決はないとの歴史に目をつぶり、法案の持つ立憲主義否定に気付かず、憲法の枠内にあるとの解釈と憲法改正論という首尾一貫しない論述。よって、この審査報告書は認められない。

【委員会報告に賛成】

公明党 植木 伸寿議員

日本を取り巻く安全保障環境は厳しさを増している。法制により、一層、抑止力を高め外交や対話を促し、紛争や課題を平和的に解決していく道筋になる。

本会議で

**不採択**

となりました

●請願第27-6号  
「参議院で安全保障関連法案の廃案を求める意見書」の採択をもとめる請願

総務委員会報告

↓不採択とすべきもの

委員会報告内容は、請願第27-5号と同じ

【討論】

【委員会報告に反対】

日本共産党 川崎 篤子議員

「説明不足」8割の声を無視し、自・公等が採決強行。憲法9条を解釈変更し集団的自衛権行使容認。自衛隊が米軍の戦争に地球規模で参戦。紛争解決は軍事力でなく話し合いの平和外交確立が必要。

無党派 相沢 一正議員

討論内容は、請願第27-5号と同じ。

本会議で

**不採択**

となりました

